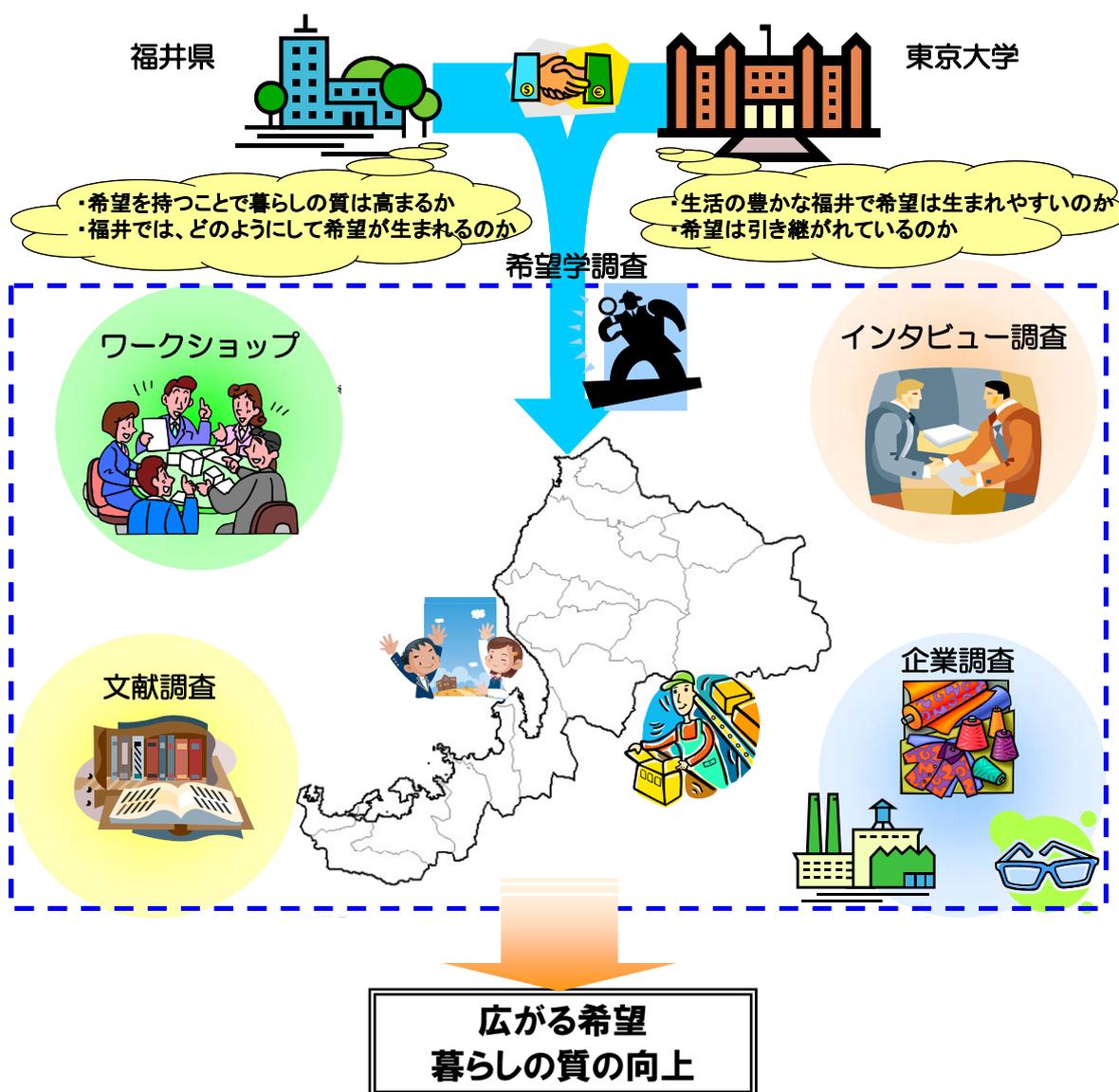


希望学福井調査

～福井県と東京大学の挑戦～

- 福井県では、東京大学社会科学研究所「希望学プロジェクト」と共同で、福井と福井県民の希望や夢について調査・研究を進めています。
- 大学の先進的な知見を活用して、福井県が将来も暮らしやすく、県民が夢や希望を持てる地域になるためには、今、何をすればいいのかを考えています。



★希望学とは

○希望学は、東京大学社会科学研究所が2005年から研究を始めた新しい学問の領域です。「希望を社会科学する」を合い言葉に、希望と社会の相互関係について考察を進めています。

○希望学では、東京大学を中心に、様々な学問分野の専門家が地域における希望の調査を行っています。

希望とは何か、どのような社会や地域に希望は生まれるのか、一人ひとりの希望が地域にどのような効果を与えるかといった問題について、社会標本調査や文献の考察に加えて、インタビューなどによる「対話」を重視した調査を行っています。



希望学プロジェクトメンバー



希望学の調査風景

★将来に対する希望

○「日本人の国民性調査」によれば、人々の生活は豊かになるか、貧しくなるかとの質問に57%の人が「貧しくなる」と回答しています。（※1）

○一方、希望学プロジェクトのリーダーである玄田有史教授（東京大学）のアンケート調査（2006年1月）によると、日本人の3人に2人が希望を持てると回答していることが分かりました。（※2）

○このように、将来に対する不安と期待が交錯する中で、福井県では81%の県民が「福井に住んでよかった」と回答しています。（※3）

○福井県は、従来から、日本の中でも豊かな地域と言われてきました。この豊かさは、先人たちが夢や希望を持って、この福井県を豊かにしてきた努力の結果です。私たちも、先人たちの想いを受け継ぎ、希望を持って行動することはできるでしょうか。

※1 「日本人の国民性調査」（2008年 統計数理研究所）

※2 「仕事と生活に関するアンケート調査」（2006年 東京大学社会科学研究所）

※3 「福井の暮らしをよりよくするためのアンケート」（2007年 福井県）

★希望学は何をもたらすか

- 希望学が2006年から続けてきた岩手県釜石市での希望学調査では、一人ひとりの希望がネットワーク化されることで、その希望が個人にとどまらず、地域の希望となり、地域の活性化につながることで導き出されつつあります。
- 人と人の関係が希薄化していると言われる現代、希望を広げていくための「つながり」を私たちはどのように維持・発展させることができるでしょうか。
- 「希望」の持つ意味について考えることを通して、人と人との「つながり」が個人の希望を社会の希望に広げていくことや、さらに新たな希望を生み出す糧となることをこの福井で実証して、暮らしの質の向上へとつなげていきたいと考えています。



福井の希望を考えるフォーラム



福井の子どもたち

★希望学福井調査

- 希望学プロジェクトでは、日本でも有数の豊かな地域である福井県で暮らす私たちが、どのような希望を持っているのかを、様々な観点から調査を行います。
- 過去から現在に至る地域の姿を、一つひとつ丁寧にときほぐしながら調査を行うことにより、現在の姿を明らかにして、未来の希望への基礎となることを目指します。
- 2009年度から2012年度までの4年間福井県をフィールドに行われる希望学福井調査は、自分たちのこれからのこと、ふるさとの将来、子どもたちの希望について、東京大学の専門の先生方と一緒に考えることができるまたとない機会です。
- 調査の一環として、福井の希望を考えるフォーラムや学校での講演会なども行われており、県民の皆さんも様々な形で希望学福井調査に参加することができます。この機会に、福井の魅力や希望を一緒に考えていきましょう。

希望学福井調査のグループ別研究テーマ

グループ名	研究者	研究テーマ	
研究代表者	玄田 有史 教授(東京大学社会科学研究所)		
社会・行政調査	労働	仁田 道夫 教授(東京大学社会科学研究所) 加瀬 和俊 教授(東京大学社会科学研究所)	
	社会調査	石倉 義博 准教授(早稲田大学理工学術院) 西野 淑美 講師(東洋大学社会学部) 元森 絵里子 専任講師(明治学院大学社会学部) 西村 幸満 室長(国立社会保障・人口問題研究所) 平井 太郎 非常勤(日本女子大学) 佐藤 慶一 准教授(東京大学社会科学研究所) トム・ブラックウッド 准教授(東京大学社会科学研究所) 広渡 清吾 教授(専修大学法学部)	
	政治	上神 貴佳 准教授(高知大学人文学部) 宇野 重規 准教授(東京大学社会科学研究所) 谷 聖美 教授(岡山大学法学部) 松井 望 准教授(首都大学東京都市教養学部)	
	環境・文化	大堀 研 助教(東京大学社会科学研究所) 佐藤 由紀 特任研究員(東京大学社会科学研究所)	
	産業・企業調査	地域企業	中村 圭介 教授(東京大学社会科学研究所) 佐藤 香 准教授(東京大学社会科学研究所) 石川 耕三 専任講師(山口大学経済学部) 建井 順子 大学院生(東京大学大学院経済学研究科)
		繊維産業	中村 尚史 教授(東京大学社会科学研究所) 中林 真幸 准教授(東京大学社会科学研究所) 青木 宏之 准教授(高知短期大学) 中島 裕喜 准教授(東洋大学経営学部) 橋野 知子 准教授(神戸大学経済学部)
		電力	橘川 武郎 教授(一橋大学大学院商学研究科) 松村 敏弘 教授(東京大学社会科学研究所) 佐々木 弾 教授(東京大学社会科学研究所) 加藤 晋 助教(東京大学社会科学研究所)
		港湾	五百旗頭 薫 准教授(東京大学社会科学研究所) 金井 利之 教授(東京大学大学院法学政治学研究科) 稻吉 晃 准教授(新潟大学法学部)
		グループ総括	大沢 真理 教授(東京大学社会科学研究所)
		男女共同参画	労働と社会
	生協	栗本 昭 主任研究員(生協総合研究所) 山口 浩平 研究員(生協総合研究所) 米澤 亘 大学院生(東京大学大学院人文社会系研究科)	

★希望学の言葉

- 『『希望』と『幸福』とは異なる。希望が未来についての表象であるのに対して、幸福は現在についての表象であり、希望が変化を求めるものであるのに対して、幸福は持続を求めるものである。』
- 『『Hope is a wish for something to come true by action』(希望とは、具体的な『何か(something)』を『行動(action)』によって『実現(come true)』しようとする『願望(wish)』である。)]
- 『希望は叶えることだけに意味があるのではなく、むしろ困難を経験しつつ『希望を育てていく』ことこそ、本当の意味がある。』
- 『希望とはあくまで一人ひとりが抱くものでありながら、他方で、希望は他者と共有され社会的な希望となりうるし、また各個人が希望を抱くことを可能とする社会を構想することにもつながる。』

『東京大学社会科学研究所 希望学プロジェクト「希望は終わらない」』パンフレットから抜粋



健康長寿の福井

作成・発行
お問い合わせ

福井県
福井県総合政策部政策推進課
〒910-8580 福井市大手3丁目17-1
TEL 0776-20-0226
E-mail seisaku@pref.fukui.lg.jp

(H23.2) ⑤